

## 平成21年度第1回千葉市史編纂会議議事録

1 日 時：平成21年5月27日（水） 午後1時30分～3時30分

2 場 所：郷土博物館 講座室

3 出席者：（委員）

吉田会長、野村副会長、本郷委員、安田委員、白井委員、今井委員  
（関係者）

千葉市史編集委員会 三浦委員長  
（事務局）

河野生涯学習部長、宇留間生涯学習振興課長

倉田郷土博物館館長、殿塚同副館長、若菜同学芸係長、  
築瀬同副主査、市史嘱託職員（大関、彦坂）

### 4 議 題

- (1) 平成21年度事業予定（案）について
- (2) 今後の事業予定（案）について
- (3) その他

### 5 議事の概要

- (1) 平成21年度事業予定（案）について  
事業予定について概ね承認された。
- (2) 今後の事業予定（案）について  
主に『歴史読本』の企画、『千葉市史 史料編 近現代』の編成案、及び『千葉市史料』（仮称）について審議し、引き続き検討していくこととなった。
- (3) その他

### 6 会議経過

午後1時40分、委員6名中6名着席。

司会（殿塚副館長）より、配付資料についての説明があり、続いて設置要綱第5条第2項の規定により、この会議が成立していることが告げられ開会。

河野生涯学習部長の挨拶に続いて、吉田会長の挨拶ののち議事に入った。

#### 議題1 平成21年度事業予定について

平成21年度の市史編纂関係の事業予定について、資料調査収集・整理事業、市史等の刊行事業、編纂普及事業、市史研究事業、市史協力員の活動、その他の活動の4つに分けて若菜係長より報告をおこなった。

<質疑応答>

吉田会長：資料調査の中の栄福寺文書というのは、どういう内容の資料か。寺院の場所はどこか。

事務局（大関）：基本的には寺院の文書・経文等だが、近現代の雑多な資料もある。軸物も多い。栄福寺は大宮町にある。

今井委員：新たな分の資料なのか。

事務局（大関）：新たな分ではない。整理途中のまま、四箱ほど残っていた物。

吉田会長：寄託文書なのか。

事務局（大関）：寄託だと思う。

吉田会長：前回も言ったが、新聞記事の抽出・データ入力には時間が掛かるようだ。館内の収蔵庫の整理と新たな収蔵場所の確保についての進展はどうか。

事務局（倉田館長）：収蔵庫のスペースの余裕は余りない。具体的な整理方法については検討中。新たな収蔵場所については、予算の関係もあるが、適当な場所を探したいと思っている。

野村副会長：会議資料について、調査中の文書等の年代・内容について、一行でも説明があると有り難い。「偵察録」とは何か。

事務局（大関）：軍隊で各地の気候風土、人情等を調査した記録で、近現代の史料編で使用する為にパソコン入力している。

吉田会長：軍隊の中の、どの部署で作成して、どういう形で残っていた物なのか。

事務局（大関）：恐らく陸軍の調査部署で作成した物だと思われるが、原本がどうなっているのかは分からない。

吉田会長：迅速図を作成した時の物か。

事務局（大関）：恐らくそうだと思うが、図版等はなく、村ごとの人数や地形、物産、経済状況等が文章でまとめられている。

吉田会長：調査中の資料については、以前は簡単な説明一覧があったと思ったが。

事務局（倉田館長）：次回は作成して添付したいと思う。

安田委員：特に近現代収集資料の現状確認については、内容を整理・提示して欲しい。

吉田会長：収集資料の調査をするという事だ。

安田委員：近現代資料の取扱については、非常に量が多いので、どこまで調査するかの方針と、確保している資料の把握が不可欠だ。そうでないと、たまたまあった資料だけで史料編を作成する事になる。その辺りの方針を、かなり意識して進めないといけない。特に新しい現代編については、どこを終着点にするのかが問題で、千葉市の場合は政令指定都市になってから後の未来に繋がる形での市史になると思われるので、市役所関係の重要な文書は確保しておく必要がある。

吉田会長：その辺りの方針は、基本的に近現代史部会で決める事だと思うが、史料編近現代の構成案でも終着点は決まっていないのか。

事務局（若菜係長）：近現代部史会でも結論は出ていない。

吉田会長：三浦委員長からは何か。

三浦委員長：近現代部史会でも、まだ確定した結論は出ていないので、更に検討したいと思う。

吉田会長：次に市史等の刊行事業についてはどうか。『千葉いまむかし』23号の内

容については、近現代の内容が増えてきているようだが、もう少し時代の幅があっても良いし、近世文書の史料紹介があっても良い。内容については、編集委員会での決定事項なのか。

事務局（築瀬）：事務局案であり、決定事項ではない。

吉田会長：次に編纂普及事業についてはどうか。

安田委員：市史編纂40周年記念講座の応募人数は募集定員よりも多かったようだが、これは第1部と第2部を合わせた人数なのか。

事務局（築瀬）：第1部と第2部を合わせて1回で募集した人数になっている。

白井委員：一度の申し込みで2回とも参加できるという事だが、応募者が多かったようなので、選に漏れた人にとっては1回ごとの申し込みの方が良かったのかもしれない。

本郷委員：応募者の年齢層は、高齢者が多いのか。

事務局（築瀬）：仕事をリタイヤされた高齢者が多い。

白井委員：昨年の市史研究講座の受講者からは、暑い時期は避けて欲しいという意見もあったようだが、もっと遅い時期ではダメなのか。会場の市美術館の工事の状況はどうなっているのか。

事務局（築瀬）：工事の予定で講座の日程を決めたが、工事が終わってからだと年度末近くになってしまう。

事務局（若菜係長）：工事は2月までの予定だが、工事が遅れると開催できなくなる恐れがある。

白井委員：美術館以外の会場は確保できないのか。

事務局（築瀬）：会場の賃借料が高いので難しい。

吉田会長：初級古文書講座のテキストの内容は。

事務局（大関）：前年度まで使用している谷当村金親家の史料を継続して使う。講師の先生の意見を入れて新規で8点ほど用意している。

野村副会長：受講の応募は多いのか。

事務局（大関）：毎年、定員に対して2～3倍の申し込みがある。

吉田会長：こうした古文書講座を、もっと頻繁に開催できれば良いのだが。

野村副会長：応募者が多いのに勿体ない気がする。

事務局（築瀬）：講座室等の関係で、現状ではこれで手一杯。

野村副会長：何か良い方法の検討を希望したい。

吉田会長：企画展については、具体的な展示は博物館が担当するのか。

事務局（築瀬）：企画立案は市史編纂担当で行うが、展示については博物館と共同で行う予定。

吉田会長：博物館事業だが、あくまでも市史編纂40周年事業の一環という事か。

事務局（築瀬）：完全に市史編纂事業だけという訳ではなく、博物館の事業としての企画展という面もある。

白井委員：前回も一部スペースで企画展を行い、今回は40周年という事で全面スペースで展示を行うようだが、今後もそうした形で行う予定なのか。

事務局（築瀬）：市史の展示は継続して毎年行う予定だが、展示スペースや規模につ

いては展示内容で決定していきたいと思う。

白井委員：新たに収集された近現代の資料については、展示をお願いしたい。

安田委員：「千葉市史40周年」だと、千葉市が成立して40年なのか何なのか紛らわしい。市民の誤解を招かないように「市史編纂40周年」とした方が良い。

吉田会長：前回の企画展は、小規模だが市史編纂活動の一環として近現代史部会の資料調査や研究活動を基本にした展示だったので、編纂会議の中でも市史編纂事業の一つとして検討・議論する対象だったが、今回の企画展については内容的にも前回とはかなり異なり、市史編纂活動の一環としての位置付けが難しい。編纂会議で検討するには、その前提として市史編纂活動としての一定の意味付けが必要で、そうでなければ博物館の常設展や企画展についても編纂会議が関与する事になってしまうが、どうなのか。

事務局（若菜係長）：市史編纂活動としての関連は薄いですが、40周年記念講座のテーマと一部リンクした形での企画展として考えている。具体的な展示方法等については博物館も協力するが、市史編纂事業の一環と考えている。

事務局（倉田館長）：今回の企画展は、たまたま40周年という事で市史編纂と博物館が共同で行うが、今後は混乱のないように市史編纂と博物館の展示を分けて行いたいと考えている。

吉田会長：今回の企画展については、博物館協議会には諮らないのか。

事務局（倉田館長）：報告は行う予定。元々は市史編纂の企画展なので、市史編纂会議委員の方々に検討をお願いしようと考えていた。小さな博物館なので、展示内容についての線引きが難しいが、今後は分けて行きたいと考えている。

吉田会長：分けるなら明確に分けておいた方が良いと思う。

事務局（倉田館長）：すぐに結論は出せないが、今後の検討課題としたい。

吉田会長：共同研究の報告会については、市史研究会と変わりがないが、同一にカウントできないのか。

事務局（築瀬）：同一にカウントしても特に問題はない。ただ共同研究という事でテーマが決まっているので、その辺りの兼ね合いはあると思う。。

吉田会長：他には何か。

今井委員：話は戻るが、今回の企画展については、市史編纂担当がメインの企画展という事で良いのか。

事務局（倉田館長）：展示物に考古資料もあるので分かり難いが、市史編纂担当がメインの企画展である事に変わりはない。

今井委員：以前、近世の史料編3・4が出た後に、関連絵図等の展示を行ったが、その時は市史担当者が少人数だったので博物館の企画展にして貰い、市史では収集した資料の展示許可等を取るという仕事の分け方をしていた。今回の企画展でも混乱のないようにお願いしたい。テーマは市内の中世城郭との事だが、城郭の名称については地元でも混乱があるようなので、中世の城郭は中世に呼ばれていた城郭名で統一した方が良いと思う。

事務局（倉田館長）：漢字で書いて分かり易い言葉で統一しているので、今後、検討したいと思う。

今井委員：史跡名所としての案内地図でも名称が統一されていないので、誤解される恐れがある。

吉田会長：この展示の企画書は誰が作成したのか。

事務局（倉田館長）：市史の担当者が作成した。

吉田会長：いずれにしても、市史編纂40周年の企画展としてやるなら、編纂会議や編集委員会でも報告・検討しなければならないと思う。時間的な事もあるので、次に議題2に移る。

## 議題2 今後の事業予定について

今後の事業予定について、計画している刊行物とその他の活動についての概要を説明した上で、「歴史読本」についてプロジェクトチームの編成等を若菜係長より説明した。

### <質疑応答>

吉田会長：今年度は「歴史読本」の予算はつかなかったとの事だが、事務局としては近い将来に予算がつくと見越して、準備体制に入るという事か。

事務局（倉田館長）：そのつもりで考えて、案を出した。

野村副会長：今年度以降の予算の見通しはどうか。それによって案を作成するのだと思うが、この構成案では予算要求は難しいのではないか。特集編については別冊でやる予定なのか。

事務局（若菜係長）：通史編とは別に考えている。

野村副会長：予算の中で別冊を作成するという事か。

事務局（若菜係長）：まず通史編を出し、その中からテーマを選んで特集編を作成する予定。

安田委員：計画としては、一つのテーマごとに一冊ずつ出していくという事か。

事務局（倉田館長）：そこまで具体的には決まっていない。

安田委員：市史編纂担当から市民に対する通史編発行の位置付けや特集編発行の必要性といった意義を明確に説明しないと、予算の査定は難しいのではないか。

野村副会長：発行目的や内容といった基本的なコンセプトを押さえておかないと大変だと思う。

吉田会長：仮に通史編が完成したとして、小中学校の副読本を越える物ができるのか。

「歴史読本」についての議論は何度かやったが、『千葉市図誌』のダイジェスト版を出す方が現実性が高いと思う。特集編についても、テーマごとの分量とバランスを保てるのか分からない。事務局の原案は尊重するが、早めにプロジェクト・チームを編成して構成案を任せないと難しいのではないか。

安田委員：副読本があるのに、新たに通史編を作るという意味付けは弱いと思う。副読本とは異なる通史編にするとしても、通り一遍な通史では予算の獲得は難しいと思う。

白井委員：副読本では、千葉市に資料が余りない時代については、千葉らしさという

のが出て来ず、中央の歴史と同じような内容になってしまった。むしろ、千葉らしさが豊富にある部分を厚くした方が、千葉市らしい「歴史読本」になるのではないか。

吉田会長：古代から中世半ばぐらいまでは、白井先生の言うとおりでと思う。

白井委員：副読本は小中学生向けなので、原始・古代も入れざるを得ない仕方のない部分もあったが。

安田委員：千葉市が出来たのは大正10年でそれまで千葉市は存在しないのだから、市域の範囲として歴史を考えないと無理だろう。歴史は千葉市域だけの範囲で完結するものではないのだから、原始・古代から中世の前半まで通して書くのは副読本ならば仕方がないが、「歴史読本」としては再考した方が良い。

吉田会長：『千葉市図誌』を、もっと活用する形で考えた方が良いと思う。

本郷委員：予算がついたら、その年度のうちに刊行するという事か。

事務局（倉田館長）：その予定だが、今回の議論を踏まえて再検討したいと思う。

吉田会長：いずれにしても、事業を進めていくのなら具体的に編集委員会等で案を詰めて行かなければ進まないだろう。史料編近現代の構成案についてはどうか。

安田委員：三巻までなら、このような編成になるのだろうと思うが、千葉市域の資料の特徴に基づいた編成ではないと思う。ある程度は仕方がないが、問題は大正・昭和期以降になると、近現代資料の所有者が歴史的な資料であるとの自覚がない事で、重要な資料なのに把握できていない状態で終わってしまう恐れがあるので、近現代の資料調査について方針を決めて進めて行かなければならない。

三浦委員長：その通りだと思う。一巻、二巻については資料的な制約もある。問題は四巻目の終着点をどこにするのかだが、まだ編集委員会でも結論が出ていない。

安田委員にも編集委員会に臨時参加して貰って、議論して貰うのも有意義だと思う。編集委員による具体的な資料調査について、予算が不足していて積極的にできないのは問題があると思う。

吉田会長：編纂会議の回数についても、予算の制約がある。通史編ではなく、史料編の構成案なのだから、資料が多くある部分を厚くしても良いのではないか。

三浦委員長：今回の構成案はテーマのようなもので、ここから当てはまる資料を探る目安として作成している。

吉田会長：逆に、近世の史料編のように出てきた資料から構成案を立てる事も考えられる。

三浦委員長：無論、現実にある資料を踏まえて構成案を作らなければいけないが、尚かつ今後資料を探すテーマとして立ててみた。

吉田会長：『千葉市史料』については、何か具体的な提案や準備を進めても良いという事か。

事務局（若菜係長）：具体的に何か決まっている訳ではない。

吉田会長：編纂する意義はあると思う。

野村副会長：まだいつになるのか分からないという事だ。史料編近現代の発行の予定はいつか。

事務局（若菜係長）：次の五ヵ年計画、23年度で予定している。

吉田会長：『千葉市史料』も含めて、具体的な刊行計画案として予算請求するのは可能なのか。

事務局（若菜係長）：これまでもそうしているが、史料編近現代の方を優先している。

吉田会長：以上で議題2を終了するが、次に議題3に移る。

### 議題3 その他

吉田会長：議題3について、事務局から何か。

事務局（若菜係長）：特にはない。

吉田会長：各委員からも特に無ければ、以上で議事を終了する。

事務局（河野部長）：21年度の事業予定については、概ね理解を頂けたと思う。各委員の御指摘により、会議資料については内容を分かり易く、古文書講座の会場等についても予算の関係もあるが次年度から検討したい。企画展のサブタイトルについても、「千葉市史編纂40周年」と表記を改めたい。企画展の展示資料と遺跡名の表記についても精査したい。刊行物の通史編については千葉市らしさを出す為にコンセプトの整理を行いたいと考えている。予算編成においては、経常的経費は別として、臨時的経費については教育委員会の各部署からの要請の中から緊急性・重要性により優先順位を決めているが、どうしても学校教育関係が優先され、生涯学習は後回しになってしまっている。そうした状況ではあるが、各委員からの意見を反映できるように進めて行きたいと考えている。

事務局（殿塚副館長）：以上で平成21年度第1回千葉市史編纂会議を終了する。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編纂担当

TEL 043-222-8231